

「研究教育分科会」講評

CAUA運営委員・研究教育分科会担当（東京大学）

斎藤 馨

研究教育分科会では、以下に示す3大学の発表があった。

(1) 「Linuxクラスターによるセンター研究・教育システムの構築」

発表：宮澤三造先生(群馬大学)

Linux(Debian)を使用し、PCを数十台でクラスターを構築したシステムの運用事例紹介。

(2) 「教育へのGISの利用」

発表：斎藤馨先生(東京大学)

- ・自然環境学講座における、地理情報システムの導入経緯。
- ・導入結果を画像を交えての発表。

(3) 「CTCマルチメディア・アカデミック・プラン(CMAP)のご紹介」

発表：三熊和久氏(CTC)

- ・CMAPに関するプランニング趣旨の説明。
- ・紹介ビデオによる、CMAPの詳細説明。

発表それぞれについてのコメントは以下のようである。

群馬大学の発表では、工学部のUNIX実習用マシンを、実習時以外にも効率的に利用するためにLinuxクラスターを組んで運用していると言う内容で、システム構築や運用面での様々な工夫を紹介していただきました。全学計算センターならば専門家もいるが、システム専任者いない学部という単位で実現させる際の具体的な事例を有り難うございました。今後、ますます学部・学科など中小規模単位での効率的運用を求められることになるので、大変参考になる内容だと思いました。また参加者それぞれの組織での今後の参考にもなりました。

東京大学の発表は、筆者の自身の話題のため、これにコメントをするのはやりにくいのですが、発表内容については映像が多いので楽しんでいただけたと思います。個人やプロジェクトレベルでのマルチメディアやインターネットの活用は今後の研究教育にますます必要となってくると思います。その際、アカデミックユーザだけが提供できる内容を、どのようにこれからますます活用が進むデジタル技術で収集し表現できるのかについては、情報技術の専門家でないユーザにとって難しい部分です。この点についてはCAUAでの情報交換に期待しています。また実際のフィールドには頻繁に出かけていますから、ご連絡いただければいつでもご案内します。

CTCによるCTCマルチメディアアカデミックプランの発表は、大学の教育研究における情

報化について、C T C がソリューションとして提案しサポートしていくという意志表示だと理解しました。個別の技術開発は情報科学の進歩に任せて、情報通信技術を教育研究のために組み合わせて活用する部分についてC T C の情報提供やサポートに期待しています。質問にあったマルチメディア情報の一定レベル質の確保については、問題点を解決することも必要ですし、一方で新しいメディアとして、今までとは違った応用方法と捉えてすぐに利用する方法も示唆していると考えさせられました。

本分科会全般としては、質疑応答の時間をじっくり持ちたい点や、発展的な意味での各発表の今後について話し合う時間があれば、より充実した分科会となるのではと感じた。